

令和4年度終始業式挨拶

- 皆さん、こんにちは。本来であれば、体育館で終始業式を行えば良いのですが、コロナ感染対策の一環として、本年度も終始業式は全校放送にて実施します。少しの時間、耳を傾けてもらいたいと思います。
- 今年度の前半も新型コロナウイルスにより、授業をはじめ様々な活動が制限されました。夏休み明けには、さらなる感染拡大を懸念していましたが、感染防止に対して、生徒の皆さんひとり一人の自覚ある行動のおかげもあり、恐れていたような校内感染の事態には至らず、現在は比較的落ち着いた状況で推移しています。このところ感染者数は減少傾向にありますが、年末にはインフルエンザの流行と相まって第8波が起これるのではないかと指摘する専門家もいます。今後とも引き続き感染対策の徹底をお願いします。
- さて、皆さんの中でも観た人がいたかもしれませんが、少し前にNHKテレビで、「長野県では制服がない高校が多いのはなぜか」というちょっと興味をそそられる特集がありました。県内には全日制県立高校が78校ありますが、そのうち、半数の39校で制服がないとのこと。全国的には、27府県ですべての公立高校に制服があり、長野県に次いで制服自由化が進んでいる宮城県や大阪府でも10～20%とのこと。
- 番組では、制服自由化の背景を関係者に対して丁寧に取材しており、理由の一つは1960年代後半日本では国家や大学当局の管理などに反発する学生運動が盛んで、その影響を受けた高校生が「制服は管理の象徴」と考え、制服の自由化が県内でも広がったとのこと。
- もう一つの理由は、長野県はわりとりベラル、すなわち自由主義的な地域のため、生徒の考え方を尊重するような機運が、他の都道府県よりも高いことも影響しているのではないかとのことでした。
- それでは、本校の制服自由化の状況はどうだったのでしょうか。同窓会誌には「制服自由化の心」（別紙参照）という項目があります。それによると、昭和46年、1971年から制服自由化の議論が活発化し、学校を二分するような大きなうねりとなり、翌年の昭和47年4月19日の生徒大会において自由化が決議、7月16日の高松祭前夜祭中に自由化が宣言されました。もしかしたら、皆さんのおじいさんやおばあさんで関わった方がいらっしゃるかもしれませんね。
- 7月16日の自由化宣言された時の様子が同窓会誌には、「いま自分達の手によって切り開かれようとしている飯田高校の新しい歴史の創造者として、胸を張りながら不安と緊張の中で瞳を輝かせていた。周囲から浴びるであろう種々の批判と鋭い地

域の目を十分意識しながらも、この地域の最初の制服の自由化を成功させ得る自信に満ちた飯高生としての誇りと自覚が、静かに厳肅さを持って全校生徒の心を支配しつつあった」と記されており、生徒が主体なって制服自由化を達成したという高揚感とともに、飯田高校の歴史を変革したことに対する責任感と矜持がにじみ出ているように思われます。

- また、この一連の過程では、ただ単に白黒をつけるのではなく、全校あげて、さらには教員も巻き込んでの民主的討論、すなわち熟議の過程が重視されたということも重要なポイントだったと思います。
- その後、学生運動は暴力化、先鋭化したことで退潮していく反面、社会・経済の安定化を求める国民の支持のもと、政府が様々な施策を推進するなかで協調性ではなく同調性が重要視され、いつしか日本は同調圧力の強い国といわれるようになってしまいました。各国の国民性をわかりやすくに表したこんなジョークがあります。
- ボートには、アメリカ人、イギリス人、ドイツ人、イタリア人、フランス人、そして日本人が乗っています。船長は乗客に海に飛び込むように説得しています。
 - ・アメリカ人に対しては「あなたは飛び込めばヒーローになれますよ」
 - ・次にイギリス人に対しては「あなたは紳士、ジェントルマンになれる」
 - ・ドイツ人に対しては「あなたは、飛び込まなくてはならない。それがルールだ。」
 - ・イタリア人に対しては「後に多くの女性から愛されますよ」
 - ・フランス人に対しては「飛び込んではいけません」
 - ・そして、日本人に対しては「ほかの人はみんな飛び込んでいますよ」
- このジョークがわかりましたか？皆さんも感じているように、現在は世界的規模で、社会の変革や多様性が求められており、これまで日本の武器であった強い同調性が対応できず、一人ひとりが主体的に考え、責任と自覚を持って行動することが求められています。この流れはさらに強く、大きなものとなっていくことでしょう。
- このことは、皆さんの様々な教育活動にも関わってきています。「探究的な学び」への転換もその一例ですし、学校の枠を超えて積極的に地域や社会、他校の生徒等と関わろうとする動きもそうです。本校でも、生徒自治会やあるいは班、個人レベルで、地域との連携、社会参画をする動きがあることを校長としても頼もしく思いますし、さらに進めてもらいたいと願っています。
- 50年前の制服自由化ではありませんが、受け身の姿勢ではなく、課題意識を持ち、何事にも主体的に係わり、自分自身の考えや態度をアップデートさせ、より良い社会、誰もが生きやすい社会に変革していこうという気概を持った行動をしていてもらいたいと思います。

- 今年度も後半に入ります。まずは高校生活を安心・安全に送ることが大切です。その上で、皆さんが充実した実りある高校生活を送ることができることを切に願っています。特に3年生は一昨日、大学入学共通テストの出願を済ませたと聞いていますが、これからが大切な時期となります。焦ることなく一日一日を過ごして下さい。以上、終始業式の挨拶とします。